



教えて!


市立病院

vol.60

市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450

テーマ

産婦人科と漢方薬のお話



今月のドクター
産婦人科長
吉田隆之医師

最近では、薬局で様々な漢方薬が売られるようになり、身近に感じられるようになりました。患者さんからの要望も増えてきており、多くの医師が漢方薬を処方するようになりました。

一般の薬（西洋薬）と比べて漢方薬が得意なのは、「不定愁訴」と呼ばれる症状に対してです。不定愁訴とは、だるい、イライラする、疲れやすいなど、なんとなく体調が悪いけれど検査をしても原因となる病気が見つからないといった状態をいいます。また、西洋薬を使っても治らない、副作用のため西洋薬が使えないという時にも漢方薬の出番です。

女性は一生のうちで、妊娠、出産や閉経など、大きなイベントがたくさんあり、ホルモンの変動やまわりの環境により、様々な不調が起こる機会が多いです。例えば、生理中に、腹痛や腰痛、吐き気、頭痛などが起こる「月経困難症」という病気では、それらの症状を和らげるために漢方薬を使います。また、生理の

10日くらい前になると、イライラ、憂うつ感、情緒不安定、腹痛、頭痛、むくみなどの症状が起こり、生理が来ると良くなる「月経前症候群」という病気にもよく使います。閉経の前後に起こる「更年期障害」にも漢方薬を使います。更年期症状には、ホットフラッシュ、のぼせ、発汗、イライラ、抑うつ、不安感、めまい、動悸、頭痛、肩こりなど様々な症状があり、漢方薬の得意分野です。その他、女性は冷え症になりやすく、冬場の冷えや夏場の冷房での冷えで困っている人が多いです。身体を温めることができる薬は漢方薬しかありません。漢方薬は副作用が少なく、作用がマイルドであり、安心して使えるので、妊婦さんや授乳中の人にもよく処方します。また、虚弱体質の改善、元気が出るような漢方薬もあります。

漢方薬は現在約150種類が保険適応となっており、様々な場面で使えます。このような症状で悩んでいる人は、気軽に産婦人科外来にお問い合わせください。